

# 私とみんなてつ

## 小学生新聞コンクール表彰式を開催

全国 609 校、7062 点の応募作品から、  
個人賞・学校賞が決定。

第7回「『私とみんなてつ』小学生新聞コンクール」の表彰式が  
開催された。表彰式には全国 609 校 7062 点の応募作品の中  
から厳正な審査を経て入賞作品に選ばれた個人賞部門・学校賞部  
門の受賞者、受賞校が出席。栄えある受賞をともに祝った。



受賞者の皆さんと主催者・後援者の役員



(左から) 主催者挨拶をする坂井会長、祝辞を述べる文部科学省の杉田視学官、国土交通省の堀内鉄道政策課長、全国小学校社会科研究協議会の石橋会長

### 「駅舎密着 24 時」

三重県／伊勢市立大湊小学校 湯前美優

個人賞部門  
最優秀作品賞 文部科学大臣賞

私が住む伊勢市の近鉄伊勢市駅には、鉄道マンの鏡ともい  
べき、名物職員さんがいます。私は小さい頃からその職員さん  
を知っていて、とにかく「すごいなあ〜、1回でいいからお話し  
したいな」って思っていました。新聞のテーマを「駅の仕事 24 時間」  
に決めて、伊勢市駅で取材をさせていただいて、今回はその西  
田さんにもお話をお聞きすることができました。西田さんはこの  
春に、鉄道マン人生を卒業されます。卒業の、一つの贈り物に  
なればと思って、心を込めて作品にまとめました。夏休みの宿  
題より新聞づくりの方が大事だって思うぐらい、一生懸命つく  
ったので、最優秀作品賞を受賞することができてとてもうれしいで  
す。鉄道について調べてみたいこと、書いてみたいことは、たく  
さんあります。次回は特別賞を目指して参加したいと思います。



最優秀作品賞の表彰を受ける湯前美優さん



日本民営鉄道協会が主催する『私とみんなてつ』小学生新聞コンクールは、新聞づくりを通じ、子どもたちに、鉄道が果たしている社会的役割について考え、理解を深めてもらおうと、2007年から毎年実施されている。全国小学校社会科研究協議会の後援でスタートし、12年開催の第6回からは同協議会とともに文部科学省・国土交通省の後援を得て開催している。

第7回小学生新聞コンクールは、昨年7月1日から9月30日まで作品を募集し、全国609校から7062点(7172人)の応募作品が集まった。第6回と比較すると、学校数で17校、作品数で507点増えしており、前回よりもさらに多くの作品が寄せられた。

これら全応募作品の中から、日本民営鉄道協会では、昨年10月末に第一次審査、第二次審査を行い、最終審査エントリー作品を選出。続いて11月末には最終審査を行い、審査委員による厳正な審査を経て、個人賞部門・学校賞部門の受賞作品を決定した。

表彰式は、1月11日(土)、受賞者17名、受賞校5校を招いて、東京會館東商スカイルームで開催。主催者挨拶に立った日本民営鉄道協会の坂井信也会長(阪神電気鉄道株式会社取締役会長)は「鉄道を応援してください。小学生の皆さんからたくさん応募をいただき、たいへんうれしく思っている」と感謝を述べ、続いて文部科学省初等中等教育局の杉田洋視学官、国土交通省鉄道局都市鉄道政策課の堀内丈太郎課長、全国小学校社会科研究協議会の石橋昌雄会長からは子どもたちに祝福の言葉が贈られた。

優秀作品賞（日本民営鉄道協会 会長賞）



「広島でGO GO!!」  
広島県/広島市立広瀬小学校 佐藤 茜

2013年にデビューしたピッコロとピッコロは、調べてみると、小さくてもすごい秘密がたくさんあります。どうやってまとめようかと考えて、クラスでも小さい私と比べっこすることにしました。それが一番の工夫です。2年連続で優秀作品賞をもらって、とてもうれしいです。次回も頑張ります。



「近畿日本鉄道 鮮魚列車特集号  
—大阪の食生活を支えてきた電車—」  
大阪府/大阪市立阪南小学校 川合祥朗

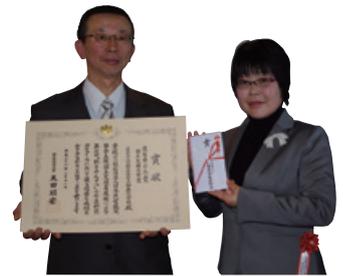
僕は近鉄電車が大好きで、いろいろな車両を知っています。でも「鮮魚列車」は見たこともないし時刻表にも載っていない。新聞の題材を鮮魚列車に決めました。2日間取材して、いろいろと話を聞き、写真も撮らせてもらいました。お仕事をしている人たちは大変なんだなと思っていました。



「小田急長後駅新聞」  
神奈川県/湘南白百合学園小学校 鈴木すみれ

今まで気になっていたこと、心に響いたことを記事にまとめました。長後駅には鳩がいて、以前、天井スペースに入り込んだ鳩が抜け出せなくなって救出される事件がありました。私はよかったと思ったけど、鳩は迷惑と思う人も多いと思ったので『鳩さん、おおめにみてあげて』というタイトルで、コラムにまとめました。

学校賞部門  
最優秀学校賞  
国土交通大臣賞



愛知県/丹羽郡扶桑町立柏森小学校

柏森小学校は2009年から参加し、初回は優秀学校賞、以降4年連続で最優秀学校賞をいただいています。学校全体で取り組んだことなどが評価されての受賞だと思っています。今後は、作品1点1点の質を上げていくことが課題だと捉えており、来年はぜひ個人賞部門の受賞を目指して、子どもたちとともに頑張りたいと思っています。

優秀作品賞（全国小学校社会科研究協議会 会長賞）



「みんなつ新聞  
近鉄電車のかっこいい車しょうさん」  
京都府/京都女子大学附属小学校 庄司瑞季

私は毎日、近鉄電車に乗って通学しています。時々見かける女性の車しょうさんが気になっていました。大石さんという車しょうさんで、インタビューして、お仕事の内容を教えてくださいました。優しくいろいろのことを教えてくださいました。入賞を知った時は、とてもうれしかったです。



「珍珍タイムズ」  
愛知県/豊橋市立羽根井小学校 鈴木綾音

前回に続いて応募しました。『珍珍タイムズ第2号』です。豊橋鉄道に取材に行ったり、市役所にある市電のコーナーでいろいろ調べて「市電と街づくり」についてまとめました。豊橋の人はあまり歩かないです。街を歩いて、車ではなく、もっと市電を利用することを提案したいと考えました。



「富士山に1番近い鉄道 富士急こども新聞  
富士山世界遺産登録 特別記念号！」  
山梨県/富士河口湖町立船津小学校 森 響

電車が大好きで、インターネットで調べている時、このコンクールを見つけて、僕も応募することにしました。富士山が世界文化遺産に登録されて、外国の人もいっぱい来ようになりました。看板やアナウンスなどを工夫して、外国の人たちがもっと利用しやすい鉄道になればいいなと思ってまとめました。



「江ノ電新聞 ～自動改札特集号～」  
神奈川県/湘南白百合学園小学校 森口 碧

江ノ島電鉄では1997年に自動改札機が導入されました。どうして自動改札機が導入されたのか、本当に早く改札機を通過できるのか、実際に藤沢駅に行ってストップウォッチとカウンターを使って1台の自動改札機を通過する人数と時間を調べました。大変だったけど、とても面白かったです。



全国71社約3000の駅に  
掲出されるポスター

日本民営鉄道協会では、最優秀作品賞(文部科学大臣賞)受賞作品と最優秀学校賞(国土交通大臣賞)受賞校を紹介するポスターを作成、3月末日まで協会加盟71社の駅に掲出する。

新聞づくりは、単なる調べ学習とは異なり、簡単に作成できるものではない。自分が興味を持ったことや疑問に思ったことをテーマに、調べて考える力、分かりやすくまとめる力が必要だ。時間もかかる。第7回の個人賞部門の受賞作品は、特に自ら駅など現場に出かけ、自分の目と耳で情報を集め、しっかりとまとめあげた作品が多かった。題材も電車の仕組みや駅員の仕事、鉄道の歴史やマナーなど幅広く、受賞した子どもたちは「鉄道への興味が深まった」と口々に話している。

小学生新聞コンクールの募集対象は小学生全学年で、新聞づくりが難しい小学1・2年生については「絵日記風の新聞」も受け付けている。回を重ねるごとに総合学習や国語などの授業、夏休みの自由研究や宿題に活用する学校が増え、毎年自発的に参加する児童も年々増えている。

新聞づくりを通して身に付く力

- 個人賞部門 最優秀作品賞(1名)、優秀作品賞(7名)、奨励賞(9名)、佳作(23名)
- 学校賞部門 最優秀学校賞(1校)、優秀学校賞(5校)、奨励賞(5校)、若草奨励賞(5校)

個人賞部門の最優秀作品賞、優秀作品賞、奨励賞、佳作を受賞した作品は、日本民営鉄道協会ホームページ内サイト『みんなつキッズ』で紹介しています。http://kids.mintetsu.or.jp/